

事業所名

ひまわりくらぶ第2教室

## 支援プログラム（児童発達支援）

作成日

7年

3月

1日

法人（事業所）理念		子どもの目線で見えて子供の立場で考え、個の療育的ニーズに応じた支援を行う。				
支援方針		1. 基本的な生活習慣を身につける支援を行う。 2. 社会性やコミュニケーションの力を高め、集団への参加につなげる。 3. 将来的な自立に向け、自分で決め、自分でできる力を育てる。				
営業時間		10時	0分	12時	30分	送迎実施の有無 あり
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	基本的な衛生習慣が習得できるように、手洗いや歯磨き、トイレの使い方など日常生活で必要となる衛生スキルを習得できるように支援をおこないます。また、食事の際に必要な道具の使い方（箸やスプーン、フォークを使う）ことなども個別課題のなかで工夫しながら取り組んでいきます。規則正しい生活リズムや睡眠の大切さなどは保護者に助言を行っていきます。				
	運動・感覚	基礎的な運動能力の向上を図るために、走る、跳ぶ、歩く、転がる、バランスをとるなど、身体を使った基本的な運動を活動の中に入れていきます。また、手と足を使った協調運動や手先の細かい動きを必要とする運動を通じて、運動能力を発展させ、身体全体を上手に使う力を養います。感覚を支援するために、水遊び。色んな素材を触る感覚遊びや音の認識、視覚的な手がかりの理解を取り入れた感覚に関する課題を取り入れることで、過剰な刺激や不足する刺激への反応を調整していきます。				
	認知・行動	こどもが集中して課題に取り組めるように環境設定を行っていきます。個別課題の中で短時間でのタスクに取り組む練習、注意を必要とするゲームや活動（パズル、積み木、絵本の読み聞かせなど）を通じて、集中力を育てます。また、視覚的又は聴覚的な指示を使って、注意をひきつけ、維持することも行っていきます。他のこどもたちと一緒に遊ぶ中で、ルールを守ってゲームを進めるスキルを学びます。これにより、集団遊びを通じ、他者と協力しあう関係を築く力を育てます。				
	言語 コミュニケーション	こどもが日常生活で使う語彙を増やすために、絵本の読み聞かせや、身近な物や状況を指差して名前を教えたり、簡単な質問を通じて新しい単語を覚えられるようにします。また、ジェスチャーや顔の表情を使い、非言語的表現を通じて、意思疎通を学べるようにしていきます。家庭でのコミュニケーションの方法をともに考え、家庭と事業所が連携して支援を行います。				
	人間関係 社会性	基本的な挨拶を使う練習を行いながら、基本的なスキルを身に付けるとともにグループ活動や遊びの中で、順番を待つことや順番に何かをすることを学びます。相手の表情や行動をみて、その子の気持ちに寄り添えるように、困っている時には声をかけたり、喜んでいる時には一緒に喜ぶなど共感する力を養います。				
家族支援		1. 家庭からの相談に対して助言を行います。 2. 障害特性に配慮したよりよい家庭環境づくりのための助言を行います。 ※必要に応じて、園や学校、相談支援専門員などの関係機関と情報を共有して支援の充実を図ります。			移行支援 1. 保育園や学校へのスムーズな移行につなげるために相談支援専門員と連携して情報の共有を行います。 2. 移行先の園や学校への助言や支援体制づくりを行うことでスムーズな移行ができるようにしていきます。 ※支援目標や支援方法等の共有や留意事項の伝達、子どもの情報や保護者の希望等について移行先への伝達を行います。	
地域支援・地域連携		1. 相談支援専門員と個別の支援計画の情報を共有して連携を図ります。 2. 園や学校などの関係機関と情報を共有し、連携しながら支援を行います。 ※園や学校、相談支援専門員などとの情報共有や調整、個別のケースに対する検討会議への出席、等			職員の質の向上 1. 事業所において、療育の目的や取り組み、感染症対策、虐待防止、身体拘束の禁止などの研修を行います。 2. 災害の種類に応じた避難訓練を行うことで、災害発生時の安全な対応ができるようにします。	
主な行事等		節分（豆まき）、七夕（願いごと・飾りづくり）、夏祭り（輪投げ、風船釣りゲームなど）、ハロウィン（仮装グッズ作り、飾り、歌など）、クリスマス（ツリーづくり、飾り付け） 年末（新年カレンダー作り）				